

大きな百合の 木の下で



IBARAKI UNIV.
NEWS LETTER
THE FIRST NUMBER.
SPRING 2001

茨城大学ニュースレター

vol.1

特集

新しい世紀・新しい大学

「バリアフリーキャンパス2000」の活動について
バイオテク研究やりたいひと集まれ! 遺伝子実験施設
メディア・リテラシーと映像作品作り
地球環境問題と、理学部で学ぶことの意味
超塑性が創り出す世界



● 学生が語る《ゼミ・研究室紹介》

● もう一つの大学生活《サークル案内》

● 必見! 《茨城大学学生新聞的學生生活スゴロク》

特集

「バリアフリーキャンパス2000」の活動について

教育学部 人間環境教育課程

助教授 加藤 敏弘

(バリアフリーキャンパス2000活動まとめ役)



図書館前に敷設されたシート

私たち茨城大学の水戸キャンパス内の各所には、平成十二年十一月、白地にブルーで車椅子マークのついたシートが敷設されました。このマークは、車椅子が80cmあれば安全に通行できること、そして半径140cmのスペースがあればゆつたりと曲がれることを、実際の寸法でみなさんに理解してもらったためのものです。

平成十一年四月に教育学部に車椅子の学生さんが入学しました。学内各所にスロープが設置されましたが、悲しいことにその通りに学生たちの自転車が置かれてしまい、通行できない状態が続きました。もちろん学生た

ちは、悪意があつてしていることではありません。気がつけば、自転車をどけてくれたり手をさしだしてくれまます。ただ、気がつかなかつたのです。

もちろん、学生たちに「ここに自転車を止めないで下さい」という標識を立ててメッセージを送ることもできます。しかし、よく考えてみてください。車椅子の学生さんは、そうしたメッセージが発せられる度に、「わたしのために申し訳ない」という気持ちになるばかりなのです。そして、何に対しても消極的になつてしまいます。私たちは、当初、そうした彼女の思いを理解していませんでした。彼女のために直接何かをしてあげようとする気持ちは、時に彼女の負担にもつなかりかねないので、そこで、悩みました。そして、やっとの思いで出来上がったのがあのシートです。

デザインというのは、形を作るばかりのものでなく、人間の生活や心を作るものです。あのシートのデザインには私たちが長い時間をかけて話し合った思いが込められています。

さらに、そのシートの役割を多くの人たちに理解していただくという主旨で、平成十三年二月にはこの活動のパンフレットも完成しました。

話し合いの過程で、実は彼女だけの問題ではないことが明らかになりました。みんな何らか



の不安を抱え、そして自信を失い、消極的になりかけています。だからこそ、ほんのちよつとだけここからだを動かして、お互いが心地よく活動できるように配慮したいものです。「バリアフリーキャンパス」には、障害者ばかりでなく、私たちみんなのこころの垣根をほんのちよつとだけ低くできるようにしたいという願いが込められています。

「バリアフリーキャンパス2000」の活動経過は、教育学部HPで見ることができます。

URL
<http://www.edu.ibaraki.ac.jp/BarrierFree/>

バイテク研究やりたいひと集まれ！遺伝子実験施設

農学部 遺伝子実験施設 助手 井上 栄一



2001年1月に完成した遺伝子実験施設棟

遺伝子やバイオテクノロジーノロジーという言葉を知らない人は、ほとんどのいないでしょう。でも、皆さんはこの言葉から何を連想するでしょうか。家畜のクローン、除草剤で枯れないダイズ、腐りにくいトマト、イネやヒトのゲノムを読む計画、オーダーメイ

ドのお薬、遺伝子診断・・・きっとマスコミにも良く登場する色々なトピックスが浮かんでくると思います。バイテクは今世紀のうちの実用的な技術としてますます身近なものになってくるでしょう。皆さんのなかにもバイテク研究をやりたいと考えている人

がきつといると思います。そんなみんなの期待に応えるために新しく「遺伝子実験施設」が設立されました。遺伝子やバイオテクノロジーに関する研究が目的であれば、学部を問わず誰でも利用できます。決まりさえ守ってもらえれば学外の研究者も受け入れ可能です。施設では個性豊かな四名のスタッフが皆さんのご利用をお待ちしています。バイテク研究をやりたいと考えている皆さん、私たちと一緒に施設の歴史（研究の）を作ってください。記念すべき二十一世紀の最初の月に完成した奇抜なデザインの建物には（写真参照）遺伝子を調べたり細工したりする機器や研究の材料となる生物（微生物、動物および植物）の細胞・組織を培養して操作するための設備等がそろっているため、目的に応じて色々なバイテク実験が可能です。

皆さん、もしバイテク研究をやりたいとお考えならまず茨城大学に入りましょう。不幸にも他の大学へ進学したとしたら大学院からでも遅くはありません。入学前に施設のことをもっと知りたいという方には、高校生諸君や一般の方々にバイテク研究を体験してもらつための講座も開催しています。細かい日程や内容は、ホームページにアップしますので、まずはお試し期間として興味がある方は参加してみてください。

特集

メディア・リテラシーと映像作品作り

人文学部 コミュニケーション学科 教授 佐野 博彦

皆さんも実感されていることと思いますが、私たちは、新聞、ラジオ、テレビといったマス・メディアに触れる時間が多く、そこから実に多くの情報を得ています。また、そのなかでも、テレビを中心として映像を通して情報を得る機会が圧倒的に多くなってきています。ですから、現代人として生きる上で、マス・メディアのあり方やその情報の伝え方の実態を知り、情報自体が正しいものか等について判断力を養うこと、特に、映像情報（テレビ報道、テレビ番組等）を批判的に読みとる力を持つことが必要になってきます。

近年、映像を制作する機器が安価になり、誰もが手にすることができるようになりました。と同時に、インターネットを使えば、放送局と同じように、一人ひとりが映像作品を作って世界に向けて発信することができるようになりました。これまでマス・メディアによって独占されていた映像を発信する力を、だれもが手にすることができる時代になったのです。

このように、現代においては、メディアを批判的に読み解く能力を身に付けること、中でも、映像作品（テレビ、映画）を読み取る力を身につけること、自分たち自身が新しいメディアを使って自己表現し、発信していく能力を身に付けることが必要とされて来ています。「メディア・リテラシー」では、このようなことを学習しています。

私の授業（「メディア・リテラシー」「メディア制作論」）では、デジタルカメラや最新のコンピュータによる編集機材を使って実際に映像作品を制作し、メディア、特にテレビに対する理解を深める

ことを重視しています。作品（番組）を創る作業は楽しいものです。楽しみながら、発見しながら、メディア・リテラシーについて体験的に学んでいきたいと思っています。



コンピュータを使った映像の編集作業

地球環境問題と、理学部で学ぶことの意味

理学部 地球生命環境科学科 教授 渡邊 堯

ある国際機関の調査によると、来世紀までに地球の気温は1.5℃の0.1℃上昇する可能性があり、それに伴う海面上昇や気候の変化が大きな社会問題となることが予想されています。このように地球環境の危機が叫ばれている時代において、「理学部で学ぶ」ということの意味はどこにあるのでしょうか。

理学部では、先ず自然の仕組みを知ることから研究を始めます。環境を支配する自然現象を深く理解するにつれて、この地球の環境がかけがえの無いものであることが良く分かって来ます。「地球上に生命が存在する」ということがどれほど「まれ」なことであり、我々が生きていられる場所は地球しか無いのだ、ということを一人ひとりが心の底から認識すること、これが地球環境を護る上で最も重要なことです。「地球に優しく」ところか、私たちは「地球に優しくされている」のです。世の中には、「いずれ地球には住めなくなるので、宇宙のどこかに移住する技術を開発しよう」と言っている人もいます。しかし、たとえ何百人乗りのロケットが出来たとしても、どうやって一〇〇億人近い人達を移住させるのですか？そして、地球を離れてどこに行くつもりなのですか？凍り付いた火星や、焦熱地獄の金星は駄目ですよ。危険な放射線粒子の渦巻く銀河系宇宙の中を放浪したとしても、

恐らく長くは生きていられないでしょうね。それに、人間だけ助かれば良いというのですか？一緒に地球に住んでいるトンボやムツゴロウ達は、どうなっても良いのですか？人間に役立つ動物や植物だけ持って行く、なんて身勝手なことが許されると思いますか？

さて現実の世界に戻って見ますと、今やどの職場においても、環境の問題とは無縁でないことに気がきます。以前は環境問題というと、すぐに工場とか自動車のことが頭に浮かびました。しかし、こんにちでは環境とは

余り関係の無さそうに見える商業関係でも、ペットボトルや包装の問題などに見られるように、環境と深く関わっています。そこで理学部で環境を学んだ人達が社会の色々な分野に進出して、単なる利潤の追求や新製品の開発だけに眼を奪われるのではなく、地球全体の環境にもしっかりと配慮することが、結局は人類全体の利益につながるのだ、という考えを広めてほしいと思います。私たちの理学部では、そのような社会に役立つ人材を養成するため、幅広い教育や研究指導を行なっています。



このゴミをどうする？

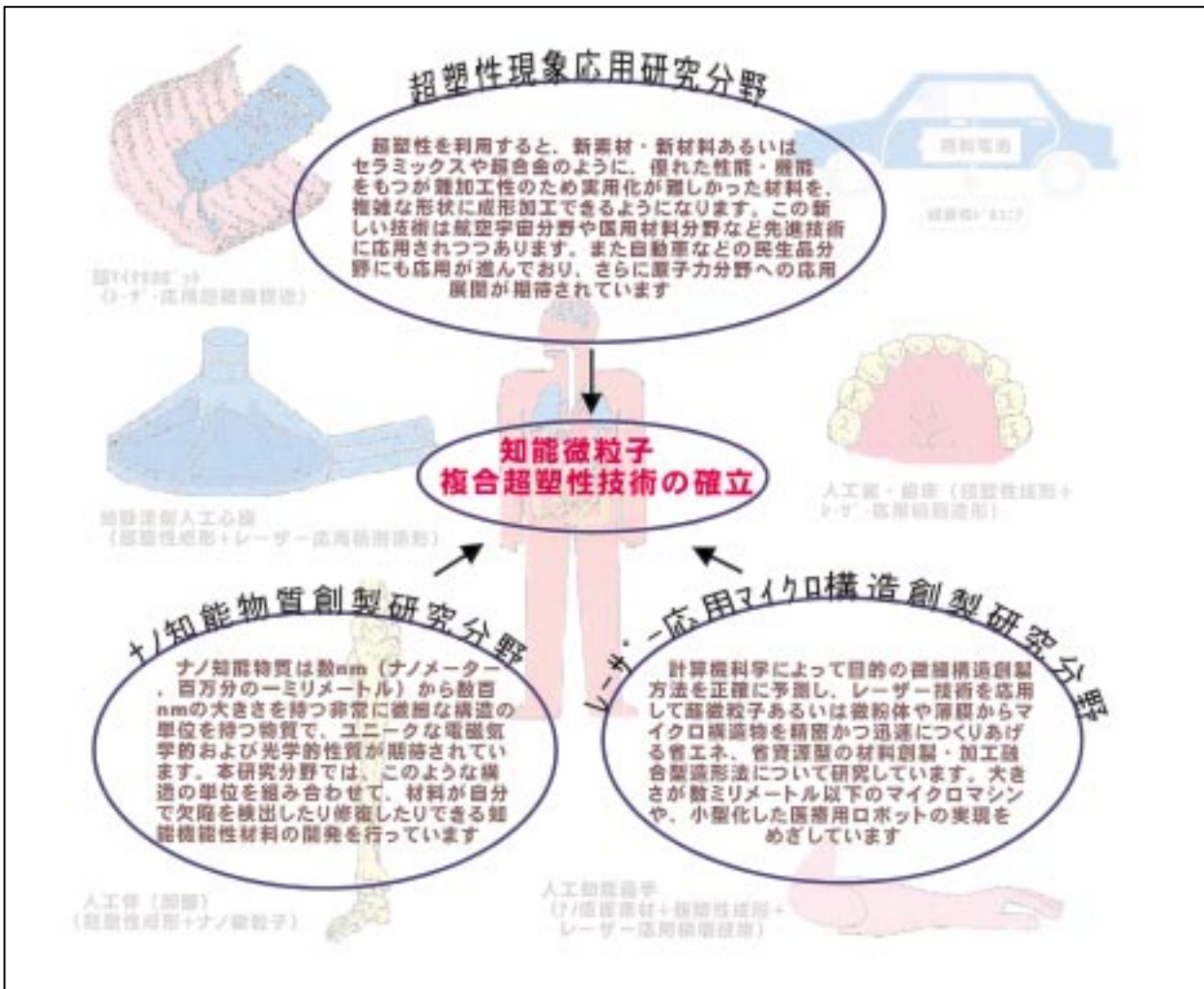
特集

超塑性が創り出す世界

工学部超塑性工学研究センター センター長 教授 本橋 嘉信



本研究センターでは、今世界的に注目されている超塑性現象とナノ物質の合成、制御技術、レーザー積層造形技術を有機的に組み合わせ、材料の高性能・高機能化を実現すると同時に、これまでにはない知的な機能をもった複雑構造物を生み出していくことを目的としています。また、環境や人間に優しい新技術シーズを、地域社会や世界に向けて発信すること、さらに、新分野を担う研究者・技術者の養成を目指しています。





ワタシかわいい？

馬術部

農学部には馬術部があります。馬術とか乗馬というと優雅にたしなむ「お遊戯」というイメージがあるかもしれませんが、ここには競走馬あがりの優美さのカケラもない、でも顔だけはかわいい三頭の馬がいます。人間はといえば、ほとんどが生まれてからろくに馬を見たとさえなかった人たちです。そんなひとびとがまあ、無理をせず馬術を楽しんでいます。ひと昔前までは国立大としては健闘してたんですが、今となってはりっぱな設備だけがかつての隆盛を物語っています。当部は五〇年もの伝統を誇っており、競技における上位進出に向けて練習に励んでいる今日この頃です。

茨城大学アナウンス・ステーション

私たち茨城大学アナウンス・ステーションは、二〇〇〇年四月から活動を始めた新しいサークルです。主な活動には、普段行うアナウンスの基礎練習やFMばるるんでのラジオ番組の放送（毎週金曜日21:00～22:00）関東大学放送コンテスト（九月）への出場などがあります。アナウンスと言う既成の枠にとらわれない多様な活動を通して私たちが目指すのは、『本物になる』こと。おしゃべりを根本的に見なおし、多角的な視点でアプローチすることにより、『コミュニケーション』のプロを目指します。将来アナウンサーを志す人もそうでない人も、ぜひ一緒にアナウンスの世界に挑戦してみませんか？



FMばるるんでの放送風景（13年2月）



ゴール!!

ラクロス部

我々、茨城大学ラクロス部は、男子TUNNERS、女子SCAMPというチーム名です。女子ラクロス部は、テレビなどで見たことがあるかもしれませんが、男子ラクロスはあまり知られていません。しかし、男子ラクロスは激しいスポーツで、観戦してても熱くなりますし、体験すれば楽しくて夢中になります。部員は、水戸キャンパスの人だけでなく工学部、農学部の日立キャンパス、阿見キャンパスにもいて、週四回の練習のうち水曜日と土曜日は水戸に集まり練習しています。今年の成績は、男子はクラブリーグ二部で三位、女子は同じクラブリーグ二部で準決勝まで進みました。さらに上位進出を目指して、日々努力しています。

教育学部 情報文化課程

岩佐淳一研究室

私たち岩佐研究室では、現在、二年生二名・一年生二名で、林業・住宅について勉強しています。本を読んで知識を取り入れることもしますが、活動の大半は大学の外で行っています。林業や住宅に関わる仕事をなさっている方々にお話を聞きに行ったり、実際に山へ行き作業を見学したり、また、建設中の住宅を現場で見学させてもらい、構造等を詳しく見ることで、住宅そのものの理解を深めることもしています。このように学内だけでなく、社会にも目を向けることによって、視野が広がっていき、この経験は社会人となってからも、大いに役立つことだと思っています。

長谷由理・宇賀神裕子



美和村の製材所見学



みんなで稲刈り、実りの秋

「水のことなら何でも私に聞いて！」なんて言う将来像を夢見ている君、そんな君は我が水環境再生工学研究室に来るべきです。

【ボートに乗り込んで霞ヶ浦の水質調査】気分爽快です。

【水田を利用した水質浄化実験】田植え、稲刈り、おにぎりパーティー付。ザリガニ、どぜう捕りも楽しめます。

【水質浄化装置の開発】白衣がカッコいいです。色々な分析法が身に付きます。

【衛星からの地理データを利用した霞ヶ浦の流域管理】パソコンに強い人、大歓迎です。

考えているだけじゃ、環境は守れません。一緒に始めよう！バレーポリュシオン21！

修士課程 浅井 真

農学部 地域環境科学科

水環境再生工学研究室

人文学部 人文学科

日本社会史ゼミ

私たち日本社会史ゼミは、温厚な長谷川伸三先生のもとで、月曜日に近世の農村について勉強しています。今年度のゼミ旅行では、テキストで扱った滋賀県を実際に訪ねました。昼間は長浜や彦根の史跡を見学し、夜は勉強と懇親をかねたミーティングと充実した旅行でした。また金曜日に史料講読の実践的演習として、附属図書館の貴重書室にある近世の古文書を読んでいます。実際の古文書に触れることは、非常に良い体験となります。この史料講読でも、夏休みに茨城県鹿島郡で現地合宿を行いました。史料整理や史跡見学など充実した合宿でした。

3年生 矢部清美



彦根城跡の庭園にある水戸市寄贈の二度咲き桜の前で（平成12年11月）

工学部 機械工学科

増澤徹研究室



成果発表の1コマ

当研究室では、主に「バイオメカトロニクス」関連の研究を行っています。バイオメカトロニクスとは、「人に密着したメカトロニクス」という意味です。我々は、メカトロニクス技術を人工臓器、医療分野や福祉分野に応用するとともに、生体を対象とした新しい工学技術を創生することを目的としています。人工心臓の開発や手術支援ロボットの開発など、実際の「モノ作り」を通して、研究を行っています。自分のアイデアを活かし、新しいモノを作り出す喜びを味わえる素敵な研究室です。

修士課程 佐久間剛太

教育学部 学校教育教員養成課程
島剛研究室

ホームページURL
<http://www.edu.ibaraki.ac.jp/art/>
二年生 飯田政志

今、彫刻ゼミが熱い！十二年の八月に、岐阜県瑞浪市で開催された「みずなみ陶土フェスタ」に六人のチームで参加し、準グランプリを獲得。三日という区切られた時間の中で、高さ二mの『だいだらぼっち』を制作しました。同年十二月には、二月より毎週行われた会合を経て、東海ステーションギャラリーにおいて「漢展」と題した展示会を開きました。十三年に入り卒業制作の最中、四年生が個展を開くなど、ゼミ周辺での活動が常に活発です。鉄・石膏・陶・木・石・パン（ー）など様々な素材に取り組み、それぞれの手法で造形された作品がなによりの自慢です。「漢展」での発表作品の一部は、教育学部美術教育ホームページで見ることができます。



準グランプリ作品「だいだらぼっち」

理学部 自然機能科学科
高妻孝光研究室

『生命科学の最新の研究をしたい！』高妻研究室にはこんな野望を持った学生が集まっています。この研究室では、生体内で大事な働きをしている遺伝子とタンパク質について、分光学・分子生物学・結晶学などの方法で構造や機能について研究をしています。最近では、今秋に打ち上げ予定のスペースシャトルでの実験プロジェクトにも参加する予定になっています。この研究室ではいろいろな最先端の科学に触れることができるんですよ。生体内のメカニズムに興味がある皆さん、何かの機会にぜひ一度覗いてみて下さい。

修士課程 菊池まき子
ホームページURL
<http://www.sci.ibaraki.ac.jp/kohzuma>



新棟ではりきって実験中！！



行政学ゼミのメンバーです

佐川泰弘先生の行政学ゼミでは、行政改革という難しいテーマを扱っています。しかし、ゼミ内の雰囲気はとても良く、疑問に思ったことについて何でも発言できます。そのために、知らず知らずのうちに知識が身についてきます。二コースもわかるようになり、実は政治が身近なテーマであると実感でき、やりがいもでできます。ゼミ生はみんな個性が強いのですが、まとまりがあり、楽しみながら勉強しています。3年生は時事的問題から勉強し、4年生では各自の卒業論文に取り組みます。詳しくはゼミ・ホームページを見てください。

ホームページURL
<http://www.hum.ibaraki.ac.jp/zemi06/index.html>
三年ゼミ生一同

人文学部 社会科学科
行政学ゼミ

工学部物質工学科
友田陽研究室

我が研究室である「友田研」は、友田先生と技術官の佐藤さんをはじめ総勢十二名と、他学科と比べ小さい研究室が多い物質工学科のなかでは比較的大きな研究室です。

現在、鉄を中心に多方面にわたる先進的な研究を行っています。本研究室の特徴としては、みんなが一生懸命研究していることであり、そのため学生でも学会発表の機会が多く、学生によっては海外で発表する場合もあります。また研究活動だけでなく研究室でのイベントも多いことが特徴です。友田研究室は、「よく学び、よく遊ぶ」。このようなメリハリのある学生生活を送れる研究室です。

修士課程 加福秀考



日本鉄鋼協会の秋季大会で発表



学生生活物語双六

(的)

構成・写真協力
茨城大学学生新聞部

NORMAL BACK GO FORWARD
STAY



ふりだし

入学おめでとう!
どうか充実した大学生活を。



超高級アパート
東京に勝る住み心地、5万円台のこの安さ。



超格安アパート
家賃2万円、底値は、何と1.5万円。



笠間稲荷神社
車で30分の初詣の名所。恋愛成就もすっかり祈願。



自転車20分。梅の春には是非一度、入園料は無料。

水戸きってのデートスポット。恋人とLet's go!



あがり

卒業おめでとう!!
素晴らしい未来が開けますように。

13 5月31日は茨大の創立記念日。
1回休み

12 盛り上がった新入生歓迎コンパ。
1回休み

11 凄い勧誘に負けサークルへ加入。もちろん新聞部。

10 カラオケで大暴走!! のどが枯れる。
2つもどる

9 教官に授業の疑問点を聞き、仲良しに。
5つ進む

8 初めてのバイト、それは家庭教師。チョット緊張。

7 東京へ遠出。もちろん「スーパーひたち」で。

66 笠間稲荷神社に初詣。恋人が出来ますように!!

67 学生なのに、お年玉がもらえず、残念。

68 新年会コンパで大いに盛りあがる。
1回休み

71 バレンタインデーに恋人が出来る。
3つ進む。



校舎内談話コーナー
茨大女子学生にお似合いのお洒落なソファ。

15 友達と学内のすてきなソファで語り合う。

14 初めてレポートの課題、頑張るぞ!!



サークル加入の勧誘
サークル100超。新入生獲得の大熱闘

16 試験に備え、図書館で勉強しよう。

17 テスト直前の勉強で、寝過ぎす。
1回休み

18 明日はテストなのにやる気が出ない
3回休み



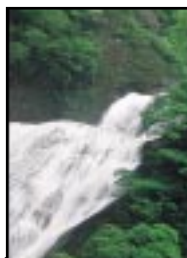
特急「スーパーひたち」
上野まであっという間の65分。

19 初めてのテスト。単位が無事に取ればよいが...

64 12月26日、半額のクリスマスケーキを買う。

63 茨城名産の干し芋を食べる。栗よりうまい。

62 サークルの友達と氷結した袋田の滝を見に行く。



袋田の滝
電車とバスで約2時間。そこはもう茨城のナイアガラ。

69 サークル棟で、年男の豆まき。浪人したことがばれる。

70 後期のテスト。単位下さい。卒業できますように。

サークル棟の豆まき
平和よ来い、恋も来い。サークル棟の鬼は、外。

34

サークルの夏合宿へ、対抗試合へ。だんだん貧乏に。3つ進む

33

サークル棟へ泊まる。1回休み

32

工・農学部は2年から日立・阿見へ。アパートを探す。

31

大学生のステータス、パソコンを買う。

30

夏のバイトで、大金持ちに。2つ進む



海外留学
空の彼方に待っている私の輝かしい未来よ!



学生寮
寮費は6,000円、光熱費、電気代を払っても安い。

35

アパートから金のいらない学生寮へ。



サークル棟で1泊
たまにはいいね。でも、癖になるかもネ。

28

青春18切符で貧乏旅行を楽しむ。3つ進む

29

世界各地の提携大学へ、さあ海外留学だ。



夏は関東甲信越体育大会
夏、スポーツにキミの青春を賭けないか!!

36

超極貧になり、友達に助けを求める。4つもどる

37

9月1日に登校するが、茨大の後期は10月1日から。

27

夏といえば海。大洗海岸へ彼女とドライブ。



大洗海岸
車で20分。夏の恋も、水族館も、キミを待つ。



千波湖の夏の花火大会
恋の花火も飛び散るぞ。千波湖の花火大会。

38

サークルの試合で優勝。6つ進む

26

デートのため? バイトのため? 免許を取得。1つ進む

39

つまらぬいさかいで恋は破局へ。3回休み

39



中国留学生の餃子店
毎年長蛇の列。本場仕込みの美味さをご賞味あれ。

25

久しぶりに帰省。懐かしいな。

24

夏休みに集中講義をたくさん取る。3つ進む

23

恋人と手をつなぎ、千波湖の花火大会へ。

20

夏は、涼しい茨苑会館でダベるのが一番。

40

成績表は良好につき、授業料免除!! 4つ進む

41

茨苑祭の準備に徹夜で取り組む。1回休み



Mr.レディ
茨苑祭名物。ああ、なんてキミは美しいんだ!!

44

中国人留学生の本場仕込の餃子を食べる。美味しい。

45

ブリーフ神輿に追いつけられ、必死で逃げる。14進む

22

苦手だった納豆が欠かせなくなる。

21

大学生の必修科目、麻雀を覚える。1回休み

学名	後C	12.0	11	初等
学名	前D	-	11	初等
学名	前次	-	11	算数
学名	後D	-	11	中等
学名	前次	-	11	初等
学名	後D	-	11	生活
学名	前止	-	10	教育
学名	後次	-	10	人間
学名	後D	-	11	教育
学名	前止	-	11	教育
学名	後D	-	11	人間

待ちに待った成績表
A~Cなら単位取得。D、止、欠は不可。自指せ卒業単位。

42

茨苑祭のハナ・Mr.レディに追いつけられる。5つもどる

43

サークルの模擬店を見て回る。

46

楽しかった茨苑祭の打ち上げ。また楽しい。1回休み



ブリーフ神輿
茨苑祭極付けの出し物。熱狂的女性ファンが待っている。



秋の銀杏
茨大秋の風物詩、金色に光り輝く銀杏の絨毯。

51

愛用の自転車がパンク。次回は1つしか進めません



五浦美術文化研究所
岡倉天心ゆかりの日本美術を育んだ景勝の地。

47

待ちに待った親からの救援物資が届く。2つ進む

48

サークルの友達と秋の筑波山に出かける。



筑波山
車で1時間。1人に見るにはもったいない紅葉だ。

52

国際化に合わせてTOEICに挑戦。

49

芸術の秋、五浦美術文化研究所に行く。入場券は学生証。

48

サークルの友達と秋の筑波山に出かける。

61

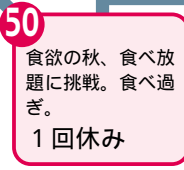
仲良しの教官とあんこう鍋を囲んでコンパ

54

新棟の建築現場から不発弾、一時立入禁止に。1回休み

53

構内のイチョウの紅葉がきれい。思わず感嘆。



まゆ毛犬
まゆ毛だけじゃなく、「肉」も描かれたワン!!

50

食欲の秋、食べ放題に挑戦。食べ過ぎ。1回休み

59

冬になり、キッチンと風邪を引く。1回休み

60

「~だっべ」と茨城弁が移ってしまった。3つ進む

55

地元の水戸ホーリーホックがJ1昇格。10進む

56

構内の犬にまゆ毛を描く。お詫びにエサをたくさん。

57

就職が内定。嬉しいな。万歳、万歳、万歳!! 4つ進む

58

大好きな鹿嶋アントラズが優勝。3つ進む。

茨城大学からのお知らせ

「三大学間で、好きな単位」が 取れる単位互換制度の調印が

平成十三年一月十七日、茨城大学、宇都宮大学、福島大学の三大学間で、平成十四年四月からスタートする単位互換協定の調印が行われました。単位互換制度をスタートさせることによって、個々の大学、個々のキャンパスという物理的な条件を越えて、学部、大学院の学生に多様な学習機会を提供いたします。三大学は、個々の大学のカリキュラムを補完しあって、総合大学的な役割を果たします。

当面は、全学部、大学院の学生を対象に、夏季休暇中の集中講義からこの制度をスタートさせる予定です。



調印式にのぞむ宮田学長（中央）

「バーチャル統合キャンパス構想が スタートへ

水戸、日立、阿見と3つのキャンパスに分かれている茨城大学では、高速通信回線を活用して遠隔授業が

できる「バーチャル統合キャンパス構想」を検討、この構想は平成十三年度から部分的に稼働します。

平成九年に稼働した全国の国立大学間を結ぶ衛星通信映像ネットワーク(SOS)に加え、テレビ会議システム(SOS)に加え、遠隔授業で水戸、日立、阿見が結びつき一つのキャンパスのように機能します。

これまでも教育学部情報文化課程の建築デザインカリキュラムと工学部都市システム工学科は、学部横断型コースとして共同授業を行っています。

これからは、金融工学、ZGO（非政府機関）、ZPO（非営利機関）、科学ジャーナリストなど複数の学部にもまたがった履修コースの検討を進め、平成十四年度以降の本格的稼働を目指しています。

公開講座について

茨城大学では、水戸、日立、阿見の3キャンパス、茨城県三の丸庁舎の茨大インフォメーションセンターなどにおいて、高校生、市民、技術者、幼・保、小、中、高校の教職員等を対象に、分かりやすく、面白く、ためになるバラエティ豊かな公開講座を開設しています。

平成十三年度も五月頃から本格的にスタートいたします。詳しくは、茨城大学のホームページ「公開講座」をご覧ください。

ホームページアドレス
<http://www.ibaraki.ac.jp/>

理学部に新校舎 「総合科学棟」が完成

平成十二年度に完成した総合科学棟は、七つのフロアで構成されています。四つの研究エリア（分子生命、物質合成変換、宇宙物理、宇宙物質）と国際学術情報フロアー、総合情報処理センター水戸分室が入っています。快適な研究環境から素晴らしい研究成果が次々と生まれることが期待されます。



新築になった総合科学棟

「大きな百合の木の下で」の命名

茨城大学水戸キャンパスの正面、付属図書館の前にそり立つ巨大な樹木が、「ゆりのき」。アメリカ原産のモクレン科の落葉高木です。五月、六月頃には、直径六センチほどの黄色のチューリップに似た花をつけます。葉は平滑で、浅く掌状に四つのかきこみが入り、半纏に似ているので、ハンテンボクとも呼ばれています。

ゆりのきは、茨城大学のシンボルツリーともいべき存在です。ゆり

は、漢字で「百合」と書き、百には、「たくさんの」、「おおくの」という意味がこめられています。茨城大学には、たくさんの学問領域、研究テーマがあり、たくさんの教職員が働き、たくさんの学生が集い、たくさんの出会いが生まれています。

落葉高木の百合の木は、若葉、新緑、開花、紅葉、落葉と、四季折々に豊かな季節感を伝えてくれます。

茨城大学の学内の全てを包み込む百合の木の大きく、暖かな包容力にあやかっ、茨城大学内の様々な出来事、ニュースを読者の皆さんへお伝えしたく、この大学ニューズレターを「大きな百合の木の下で」と命名しました。読者の皆様のご愛読とご支援をお願い致します。

表紙写真提供

茨城大学生生活協同組合

編集後記

創刊号の出来映えはいかがでしょう。二十一世紀を迎え、大学は着実に変化を遂げつつあります。しかし、その実態は大学の外部の方々には分かりにくいのではないのでしょうか。開かれた大学の実現を目指して、年に二回程度、このような情報誌の発行を行ってまいります。読者の皆さんの感想、意見、要望などを編集部宛にお送り下さい。より一層充実した誌面作りへ反映させてまいります。

